

# 会 議 記 録

件名	令和5年度第3回芦別市部活動改革検討協議会		
日時	令和6年2月27日(火) 18:00～19:30	場所	総合福祉センター2階 大ホール
出席者	<p>■検討協議会委員 会長、委員11名(欠席7名)</p> <p>■教育委員会 教育長、学務課長、生涯学習課長、体育振興課長、学校教育係長、社会教育係長、体育振興係長、学校教育係主査</p>		
<b>内 容</b>			
<p>1 開会(学務課長)</p> <p>2 会長あいさつ 皆さんこんばんは。年度末のお忙しい中ご参集いただきありがとうございます。本日の会議のメインは講演会となっておりますので、講師の先生と委員の皆さんとの意見交換の時間も確保できればと思っておりますのでご協力をお願い申し上げます。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 第2回検討協議会結果 事務局より資料に基づき説明</p> <p>(2) 先進地視察(安平町)結果 事務局より資料に基づき説明</p> <p>(3) 中学校及び競技団体等との意見交換の進捗状況 ※3件とも意見等なし。</p> <p>4 講演 北海道教育委員会 部活動の在り方検討支援アドバイザー 磯田 大治氏 (NPO法人おにスポ理事長) 「部活動が変わります!!～ジュニアスポーツから地域スポーツのイノベーションを～」</p> <p><b>【磯田氏】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我々が思っている部活動の印象やイメージが、実は今、収まりきらなくなっている。これが、部活動地域移行の骨子である。</li> <li>・我々を取り巻く環境が時代に合わなくなってきたということ。少子化(高齢化も)、個人主義化(ドイツの言葉)、極端な勝利至上主義からの脱却(指導者だけが勝ちたい、子どもたちはそうでもない。体罰がなくなる)、教員の働き方改革(この話で取組が加速したのは事実。しかし、これだけで話を進めると子どもたちが置き去りになる)、競技から楽しみへ、など。このように、スポーツ文化芸術活動の環境が多様化している中で、今の部活動の制度で進めていくと、収まりがつかなくなってきたということ。これが部活動改革の骨子である。</li> <li>・スポーツ庁の推計では2048年度には軟式野球部員が9割減(30万人から5万人に減る)ということが明らかになり、野球関係者に衝撃が走っている。ここまできると市町村で野球をする場がなくなると思っている。その他、ソフトテニス、バレーボールなどの団体種目は人数が右肩下がりで減少していく。陸上や卓球など個人種目で比較的始めやすい種目は今後増えていく。</li> </ul>			

内	容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような状況に対応するため、国としては地域スポーツクラブ活動体制整備事業を実施しており、道内では18市町村と札幌市が事業を実施している。</li> <li>・北海道としては、今回のようなアドバイザー派遣事業を実施している。北海道を回って来て、ほとんどが少子化でチームが組めない、高齢化で指導や運営の担い手がない、移動手段の確保といった課題を抱えている。</li> <li>・道民意識調査（16歳以上）では、大会やコンクールなどで良い成績をとることと回答したのは4.1%である。豊かな人間性を育み自己肯定感を高めることと回答したのは67.1%である。加えて、スポーツや文化に親しみ楽しむことと回答したのは51.2%である。現役の児童生徒（小学生5・6年生と中学生）や保護者でも、大会やコンクールなどで良い成績を収めると回答したのは31%しかなく、求めているところが違うところにあることが数値化されている。</li> <li>・札幌市の3年生から6年生を対象に行ったアンケート調査では中学生になったらやってみたいと思うスポーツの1位はスキーであった。2位はトランポリンであった。文化関係ではeスポーツが3位、ダンスが5位で上位に来ている。このように求められているものが違っている。我々はこれらのことを踏まえて物事を考える必要がある。</li> <li>・伊達市は、スポーツ協会の中に、伊達スポーツクラブ「藍」をつくった。教育委員会の力だけで、検討組織を設けずに受け皿をつくった事例である。ここは行政主導でひと・もの・かねを揃えており、今年度は年間予算1800万円を投じて、指導者を確保するなどして運営している事例である。来年度は2400万円の予算を計上予定とのことであった。</li> <li>・登別市の話になるが、私が最初に提案したのは、必ず、ひと・もの・かねが必要で、それを集約してマネジメントする人・組織が必要だということ。よく“受け皿を探す”とか“受け皿をつくる”というが、単純に野球部を面倒見る人や、サッカー部を面倒見るクラブを単純に探すのではなくて、かかる費用や参加者から頂く会費、ガバナンスも含めて全部を網羅できる人や組織が必要だと提案してきた。</li> <li>・さらに、子どもたちが、やってみたという意見が、どこかに反映される仕組みをつくっておかないと、今ある部活動は何とか持ったとしても、これから何か（eスポーツなど新しい何か）をやってみたいという気持ちをどこにも言えなくなってしまう。こういったことを含めたものが受け皿（運営主体、実施主体）だと考える。</li> <li>・体験格差の是正も重要になっている。室伏スポーツ庁長官は、低所得者、障害のある児童、山間地域や離島への対策、1種目だけではなく多種目の保障を目指してほしいとっている。中学生の59%がマルチスポーツに興味があると言っているのに、多種目を体験できる状況になっていない。</li> <li>・芦別市の体育協会には19種目の加盟団体がある。スポーツ少年団は7つある。文化連盟には27団体があり登別市よりも多い。部活動のほかにもいろいろな競技種目に関われるようになると豊かになるので、サポートをしていただけるとありがたい。</li> <li>・誰もが必要なサポートを受けることができるという“公平”の考えで体験格差をなくす。</li> <li>・もちろん、今までどおりオリンピックを目指す人がいてもいいし、全国大会を目指してもいい。そういう人がいてもいいが、今はいろんな多様性がある。それを今の部活動に押し込むと溢れてしまう。今それを支えているのは顧問の先生である。それを整理して、分担し合って、地域全体で支えていくイメージである。</li> <li>・「おにスポ」では登別市の委託事業でマルチスポーツ（インクルーシブ環境も含む）の場を提供している。その他、小学校の体育にTTで指導者を派遣している。指導者の役割は、安全管理と場の設定である。子どもたちがやりたい種目の場を体育館の中で作ってあげる。専門種目の指導者はいない。</li> </ul>

内

容

・幕別清陵高校の取組として実践研究した“オール部”がある。サッカー部8人、野球部が3人という中で、一番人気の部活であり部員は40人いる。一つの部活の中にコースとして種目がいっぱいある、一つの部活であるため顧問は1人。様々な種目を体験することができる。内容によっては、競技団体が間に入って環境を整えることもある。

・登別市では、文化スポーツ振興財団が受け皿になっているが、今後の予定として、その中に、体育協会や文化連盟に入ってもらい、文化・スポーツ振興協議会を設置する予定となっている。この協議会が具体的な課題を協議しながら財団や市長にいろいろと提案していくことになる。この中に、文化事業部会とスポーツ事業部会があり、野球部とサッカー部はスポーツ事業部会に属している。文化事業部会にはコーラス部があるが、参加者がいなく活動していない。これから、ここで具体的にやり方などの話し合いが進んでいくことになる。

・芦別市の場合は、市教委においてある程度の方向性を示しているようなので、あとは地域の皆さんが、そこに向けて、どうしていくかといった議論を進めながら、「スポーツ・文化活動推進クラブ（仮称）」が、ひと・もの・かね、ガバナンスを含めた受け皿となっていき、最終的には、芦別市のスポーツ文化芸術活動が豊かで持続可能なものになっていければ良い。皆さんで“出来ない”のではなく、手伝えるものを出し合っていくことで実現可能性は高まると思っている。

・最後になるが、本日話を聞いていただいたが、皆さんが考える部活動のイメージと違っていたかもしれない。もしくは違ってくることになるので、頭を柔軟にしてその対応に努めていただきたいと思います。中学生などの子どもたちでは解決できない課題なので、我々大人が知恵と勇気を振り絞って、様々な課題が出てくるが、最初から100点を目指すとは進めないで、トライ&エラーで寛容に考えながら、ぜひとも進めていただきたいと思います。

【質疑応答】

・委員（学校関係者）～道民の意識調査の結果を見て、私自身も指導者という立場で部活動を長くやってきたが、発想の転換というか意識を変えなければならないことを実感した。

子どもはスポーツを楽しむのはわかるが、子どもをクラブに入れる親の意識は様々だと思うので、その中であって、保護者からのクレーム等が出ていけば教えていただきたいと思います。

・磯田氏～バスケットボール部において指導者が派遣されたが、さっそく指導方法で子どもと揉めてしまって、保護者からクレームが来たという事例を聞いている。その指導者はご立腹になり自分で去っていったようである。保護者も、取り巻く環境はわかっていなくて、これまでの部活動のイメージを持っている人が多いと思う。

・委員（公募委員）～どこの地域も事前にアンケートを取って、子どもたちがやりたいことを把握していると思うが、上位に来ているものが部活動として存在していない。このような中、部活動の地域移行は、ゼロから作り直して、まったく新しいものをつくり上げるという感覚があるが、今部活をやっている子どもたちのために始めるというイメージになっている。新しい競技種目に取り組む地域が出ていないのは何故なのかと思う。

・磯田氏～わかりやすく言うと手っ取り早いからだと思う。今あるものをスライドする方が楽だと思う。マルチスポーツの話はみんな興味を示すが、誰も取り廻すことができないので、その環境ができあがって、ある程度進んでいけば、そういうものもできてくると思う。登別市も今あるものから取り組んでおり、軌道に乗ってから、次の段階としてマルチスポーツの話にしましょうということになっている。登別市でも事業部会の中にマルチスポーツ部をつくりたいと思っているが、法人が受け皿を運営しているので、ずけずけ物事を言えないでいる。他の地域もほとんどが社会教育の担当になっているので、進めやすいものから進めている印象を持っている。

内

容

・委員（公募委員）～確かにやりやすいものから始めて成功事例を積み重ねていくやり方もあると思うが、今の中学生はこの時期しか中学生ではないので、この子たちのことを考えると大人の事情で何年かトライ&エラーを繰り返してやっていくというよりは、最初から子どもたちと一緒にトライ&エラーを繰り返していく方が良いと思っている。そこが課題だと思っており、大人の事情と子どもの現状が合っていないように思う。

※講演会については以上で終了した。

5 事務連絡

・次回検討協議会開催について（事務局より説明）

※3/27（水）18時～ 市役所3階第1会議室

・意見集約シートについて

本日発言出来なかった事などを記載して事務局へ提出いただきたい。

6 その他

【全体を通して特に意見なし】

7 閉会